

表装の

特別展

Delightful Hyouso
-Traditional mounting style of
Japanese paintings

愉しみ

—ある表具師のものがたり

泉屋博古館

2023 11/3 金・祝 —12/10 日

泉屋博古館秋季特別展プレスリリース

「表装の愉しみーある表具師のものがたり」 展覧会概要

掛軸、巻物、屏風ー東アジア独自の書画芸術の形式である「表装」。そこには保存・管理から装飾・演出まで、さまざまな知恵と美意識が凝縮されています。表装の取り合わせの数々は、所蔵者がその作品をどう見ていたか、どう見せたかったかをも伝えるもうひとつの美術史ともいえるでしょう。

本展では当館所蔵の住友コレクションより、通常脇役とされる書画の表装にスポットをあて、その多彩な展開を紹介、そこにこめられた思いをさぐります。また表装の仕立や修理のほか、インテリアデザイナー、作家との仲介役など表具師の多岐にわたる活動を、住友家15代春翠と井口邨僊の交流を例にたどります。

展覧会のみどころ

1. 住友コレクションの名品から紹介する美しい表装の数々

国宝や重要文化財を保護する上質な表具。絵画本紙に注目があつまりがちですがあらためてその美しさや技をご覧ください。

2. 知っているようで知らない表装のこと

何気なく目にしている掛軸の表装にも様々なルールがあります。よく見ると、細部に行き渡る先人の思いに触れられるかもしれません。

3. ある表具師のものがたりー井口邨僊と住友春翠

大正～昭和初期に多くの関西財界数寄者を顧客にもった大阪の表具師井口邨僊。なかでも住友家15代当主春翠の篤い信頼のもと邸内装飾など幅広く活躍、さらに諸芸を通じた心の交流が結ばれました。

《基本情報》

展覧会名	表装の愉しみーある表具師のものがたり		
会期	2023年11月3日（金・祝）ー12月10日（日）		
開館時間	10時～17時 ※入館は閉館の30分前まで		
休館日	月曜日		
入館料	一般800円* 高大生600円 中学生以下無料 <small>*入館料が変更になりました</small>		
	<small>※本展覧会の入場料で青銅器館もご覧いただけます ※20名以上は団体割引20%、障がい者手帳ご呈示の方は介添者一名まで無料</small>		
会場	泉屋博古館 〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24 https://sen-oku.or.jp/kyoto/ TEL：075-771-6411		
主催	公益財団法人泉屋博古館 京都新聞		
後援	京都市 京都市教育委員会 京博連 公益社団法人京都市観光協会 NHK 京都放送局		

1. 住友コレクションから紹介する美しい表装の数々

住友コレクションの日本・中国の書画の多くは住友家十五代当主住友春翠（1864-1926）により明治から大正にかけて収集されたものです。書画の表装は傷めば取り替えられる運命ですが、収集家のなかには、大切な我が子に着物を誂えるように、入手した作品の表装を自身の好みのもに替えていくことを楽しみとした人もいます。そのなかで、春翠は意外にもあまり多くの表装を替えはしていません。表装に詰まった先人の思いや美意識までも尊び受け継ぐ心持ちだったのでしょうか。

異国渡りの貴重な裂、質素で風合いに富む裂、時に縁ある人物の着衣まで、さまざまな素材を取り合わせ一幅に仕立てられた掛軸は、それらを慈しみ伝えた人々の思いをも織り交ぜた複合的な芸術です。住友家の歴代が邸宅に飾っては、時に人をもてなし、時に自身や家族の滋養や癒やしとした掛軸の数々をご覧ください。

金欄に縁取られた荘厳なたたずまい



国宝《秋野牧牛図》伝閻次平 南宋時代



中国・南宋の宮廷画家による山水図。室町時代には日本に伝来し、一説には足利將軍家の宝蔵にあったとも。この貴重な名宝に、印金、金欄、銀欄といった異なる輝きを放つ織物にあわせ、作品の重厚さを受け止める。

絵に近い細長い一文字の赤い裂は画中の紅葉に呼応、その周囲を取り囲む青系の中廻しは、秋の野辺を包む秋晴れの空と見ることもできる。

禅僧の衣を思わせる質素な表装。でも実は貴重な裂も。

中国・元に渡り禅と水墨画の修業を行った黙庵の作。表装裂は二種にとどめた簡素なたたずまい。上下には禅僧の着衣を思わせる質素な無地の絹。ただし、絵の周辺を取り囲む紺色の裂は、金糸を刺繍した貴重な上代紗で、質素な中にキラリと冴えた光を放つ。



重要文化財《布袋図》

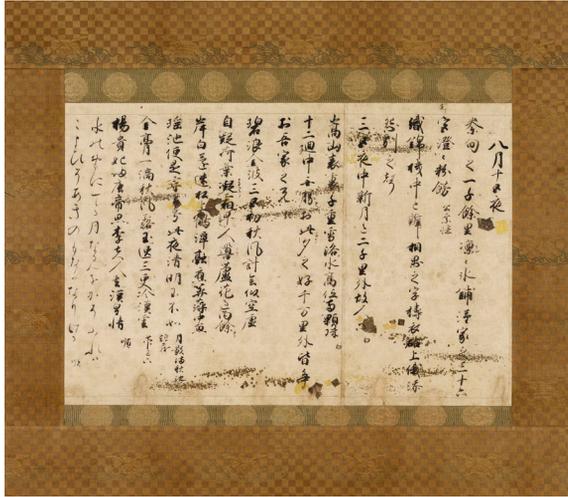
画：黙庵靈淵 賛：月江正印 南北朝時代

月の詩をぐるりと囲む
兔の文様

八月十五夜にまつわる秀句・名歌を集めた和漢朗詠集の断簡。茶系でまとめたシックな表装をよく見ると、中廻しにはこちらを向いて走る兔の紋様が。月からの連想で選ばれたのだろう。春翠の子息、寛一による機知に富む表装。

住友春翠(1864-1926)

住友家十五代当主。公家の徳大寺家出身で、住友の事業の近代化を推進するかたわら、煎茶や茶の湯などを通じ東洋の古美術を収集。華美にはしらない清雅な美意識で、関西財界屈指の数寄者として知られた。



《戊辰切「八月十五夜」》藤原伊行 平安時代

ゆかりの君の衣を表具に



《祇園祭礼図》伝長谷川久蔵 江戸時代



酒井抱一 椿棗添状 江戸時代

江戸の粋を伝える刷り物の
表装

椿をあしらった棗のデザイン案を知らせる抱一の書簡。受け取った注文主は、さらりとした走り書きにも超一級のセンスが光る抱一の手稿を喜んだのだろう。淡雅な木版刷の紙本で、そのセンスに見事に応える掛物を仕立てた。

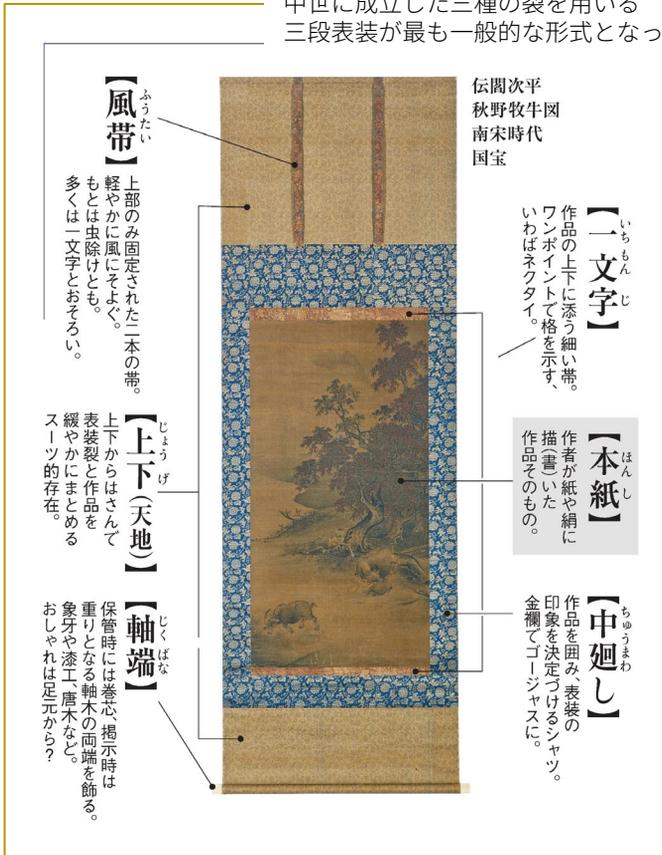
もとは祇園祭山鉦巡行の絵巻の一部で、千宗旦の書付とともに表装される。仕立てたのは幕末から明治初期に活躍した裏千家十一世精中玄々斎。画中の華やかな色彩にも関連する表装裂の色彩。加えて、一文字の赤地金欄は東福門院の貝桶裏張裂、中廻しの緑地紋紗は桂離宮創建の八条宮智仁親王の袍など、宗旦周辺で宮廷文化を彩った江戸初期の貴人ゆかりの裂を用いる。様々なエピソードや連想を引き寄せ、ストーリーは無限にひろがる。

2. 知っているようで知らない表装のこと

掛軸の表装は中国で生まれ、奈良時代ころに仏教とともに日本に伝わったと言います。絵を壁などに掛けて儀礼の本尊としたり説法にもちいたり、仏画で行われていたものが、中世以後、様々な分野の書画を装うものとして飛躍的に発達し、日本独特の表具形式が生まれました。用いる裂を吟味し、隅々までこだわりが詰まった表装。絵の意味や格によって、裂の配置や組み合わせも変わってきます。細部まで見ていくと、知られざる意味が見えてくるかも知れません。

大和表具のみどころ

中世に成立した三種の裂を用いる三段表装が最も一般的な形式となった。



文人表具

上部の風帯がなく、ほぼ一種の裂で装丁。中国風のシンプルな形式は、明治以降、額装に通じるものとみなされ、近代の画家の作品にしばしば用いられた。



《石榴花白鸚鵡図》山田秋坪
大正9年(1920)



《五髻文殊渡海図》
鎌倉時代

仏画表具

画面の周りを二重に裂が取り巻く。三種の裂とも金欄や印金など金属を用いた豪華な表装で、本尊の威徳を表す。

台紙貼り表装

三段表具の進化形。歌切など小画面の作品の周囲に無地の台紙を施す。床の間などの視覚効果を高めるために考案されたのだろう。



《寸松庵色紙 ゆふつくよ》
伝紀貫之 平安時代

3. ある表具師のものがたり ー井口郵僮と住友春翠

表装の影に表具師あり。けれども掛軸を仕立てる表具師がその名を残すことはほとんどありません。しかし彼らの仕事は単に装丁の技術だけでなく、裂の選定や取り合わせ、寸法の割合、そして作品や施主の趣味への理解など、古典の造詣と美意識を備えてはじめてよい掛軸が仕上がるといえるでしょう。ここではひとりの表具師とその施主に注目し、表装から広がる生活文化の奥深さと愉しさを探ります。



重要文化財《佐竹本三十六歌仙絵切 源信明》鎌倉時代

落ち着いたのなかに華やぎ
注文主の好みを熟知したとりあわせ



望月玉渓《有馬六景帖》大正時代
春翠が愛した有馬に伝わる江戸時代の名帖の模写。複製版の名物裂を用いた豪華な画帖。随所に見られる金砂子撒は郵僮得意の技。

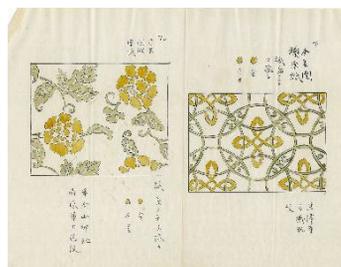
井口郵僮と住友春翠

大正8年（1919）、巻物から分割された歌仙絵の名品・佐竹本の断簡を入手した春翠は、信頼を寄せる大阪の表具師井口郵僮（いぐちそんせん・1867～1941）に表装をゆだねました。作品の本質や春翠の好みを深く理解した仕上がりで、ふたりにとって会心の一幅となりました。

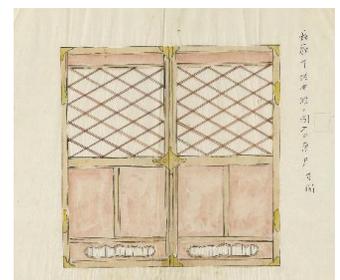
郵僮は書画表装のほか、春翠が明治末以降、各地に築いた邸宅の襖など内装も幅広く手がけました。また、郵僮を慕い集う大阪画壇の画家のなかから、実力者を見いだしては春翠に紹介し、その時代の芸術振興に寄与したことも見逃せません。温厚で芸術や文芸に通じた郵僮に春翠は打ち解け、時に絵を合作するなど心通せたといいます。

室内をトータルコーディネート

郵僮は大阪天王寺・茶白山本邸をはじめ、住友家の邸宅の襖を一手に任された。その差配は唐紙や引手、木製建具まで及び室内をトータルコーディネートした。



襖用 唐紙図案
大正時代（住友史料館蔵）



住友家茶白山本邸建具図面
大正時代（住友史料館蔵）

画家を紹介する — 知られざる大阪画壇の優品

画家にとっても表具師は作品を託す重要な存在。邨僊のもとには、そのセンスや人柄を慕い大阪画壇の画家たちが多く集いました。邨僊はその中から上島鳳山や山田秋坪、渡辺花仙ら実力者を春翠に紹介しました。画家と支援者を結ぶ働きは、大阪の芸術文化推進にもつながるものでした。その結果、今日では住友コレクションは知られざる近代大坂画壇の宝庫となりました。



《十二月美人》上島鳳山 左「八月」右「一月」
明治42年（1909）

12幅からなる鳳山の代表作。邨僊は3月分ずつ四季それぞれにあった表装を施した。



《石榴花白鸚鵡図》山田秋坪 大正9年（1920）

芸術を介して心を通わす

春翠は俳句や茶の湯にも通じた邨僊を信頼し、茶事の稽古の相手や時に狂歌や句の添削なども依頼したようです。さらに邨僊は絵も達者で、同じ頃絵画揮毫に熱中していた春翠とは、自作を交換したり賛を寄せあうなど、施主顧客を超え、芸術の世界でつながりがあったようです。

《籠地手付煙草盆》
井口邨僊 大正時代



春翠と邨僊は手製の茶道具なども贈りあった。

《桃木炉縁》
井口邨僊 大正時代



《白磁四君子画花瓶》
住友春翠・井口邨僊
・山田秋坪・渡辺花仙
大正時代



会期中の催し

すべて入館料のみでご参加いただけます。

会場は当館講堂。定員50名。

予約制（受付開始 10月12日（木）午前11時 電話075-771-6411または当館ホームページにて）

講演会「大阪の表具師井口古今堂 一コレクターや画家との関わり」

11月25日（土）14：00～15：00 徳山亜希子氏（新見美術館学芸員）

講座「表具師と施主の楽しい関係 一井口郵僮と住友春翠」

11月11日（土）14：00～15：00 実方葉子（当館学芸部長）

スライド・トーク＋「展覧会のみどころのご紹介＋掛軸の掛け方しまい方」

11月22日（水）・12月2日（土） 各回14：00～15：00 実方葉子（当館学芸部長）

入館料の相互割引

関西9館連携相互割引

「茶碗」をめぐる関西の美術館・博物館が緩やかにつながります

対象館

京都国立博物館、野村美術館、中之島香雪美術館、樂美術館、北村美術館、湯木美術館、逸翁美術館、滴翠美術館、泉屋博古館

対象となる展覧会はこちら

https://sen-oku.or.jp/chawan_museum9_hyogu/

泉屋博古館では「表装の愉しみ」展期間中に
茶碗《黄天目 銘 燕》元～明時代 を特別展示。
入館半券を片手に秋の美術館をゆるやかにめぐりましょう。



茶碗《黄天目 銘 燕》元～明時代

交通アクセス

京都市バス

JR・新幹線・近鉄電車「京都駅」／京阪電車「三条駅」から5系統

阪急電車「烏丸駅」から32、203系統

地下鉄烏丸線「丸太町駅」から93、204系統

5、93、203、204系統「東天王町」下車、東へ徒歩200メートル

32系統「宮ノ前町」下車すぐ

地下鉄

東西線「蹴上駅」から徒歩約20分

泉屋博古館は改修のため来年休館いたします。
2025年春、大阪・関西万博とともに再スタートの予定です。

特別展「表装の愉しみ —ある表具師のものがたり」

広報用画像一覧

会場：泉屋博古館（京都）



① 国宝《秋野牧牛図》
伝閻次平 南宋時代



② 重要文化財《布袋図》
画：黙庵靈淵 賛：月江正印
南北朝時代



③ 重要文化財
《佐竹本三十六歌仙絵切 源信明》
鎌倉時代



④ 《祇園祭礼図》
伝長谷川久蔵 江戸時代



⑤ 酒井抱一 椿棗添状 江戸時代



⑥ 《戊辰切「八月十五夜」》
藤原伊行 平安時代



⑦ 《十二月美人》八月
上島鳳山 明治42年（1909）



⑧ 《十二月美人》一月
上島鳳山 明治42年（1909）



⑨ 《石榴花白鸚鵡図》
山田秋坪 大正9年（1920）



⑩ 《色紙 ゆふつくよ》
伝紀貫之 平安時代

広報用画像申込書

泉屋博古館 広報担当行き

TEL：075-771-6411 FAX：075-771-6099 E-mail：pr-kyoto@sen-oku.or.jp

本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、以下の作品画像をデータでお貸出しいたします。申込書のご希望の画像に を付し、FAXまたはメールにてお申し込みください。

	作品名	時代
<input type="checkbox"/>	① 国宝《秋野牧牛図》伝閻次平	南宋時代
<input type="checkbox"/>	② 重要文化財《布袋図》画：黙庵靈淵 賛：月江正印	南北朝時代
<input type="checkbox"/>	③ 重要文化財《佐竹本三十六歌仙絵切 源信明》	鎌倉時代
<input type="checkbox"/>	④ 《祇園祭礼図》伝長谷川久蔵	江戸時代
<input type="checkbox"/>	⑤ 酒井抱一 椿棗添状	江戸時代
<input type="checkbox"/>	⑥ 《戊辰切「八月十五夜」》藤原伊行	平安時代
<input type="checkbox"/>	⑦ 《十二ヶ月美人》八月 上島鳳山	明治42年（1909）
<input type="checkbox"/>	⑧ 《十二ヶ月美人》一月 上島鳳山	明治42年（1909）
<input type="checkbox"/>	⑨ 《石榴花白鸚鵡図》山田秋坪	大正9年（1920）
<input type="checkbox"/>	⑩ 《寸松庵色紙 ゆふつくよ》伝紀貫之	平安時代

●御社基本情報

媒体名（URL）：

発行日／放送日：

御社名：

ご担当者名：

電話・FAX・E-MAIL：

●招待券希望枚数： 5組10名 10組20名 ばら（ 枚）

（送付先住所： _____ ）

※お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。

※情報確認のため、お手数ですが校正原稿を当館へお送りください。原稿確認を行わず誤った情報が掲載された場合、当館では責任を負いかねます。

※広報用画像の掲載には、各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※アーカイブのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

※作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展招待券を読者プレゼント用に提供いたします。招待券希望枚数を明記してください。

〔問い合わせ先〕 泉屋博古館 広報担当課長 坂井さおり pr-kyoto@sen-oku.or.jp
学芸部長 実方葉子

〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24 電話 075-771-6411 FAX 075-771-6099